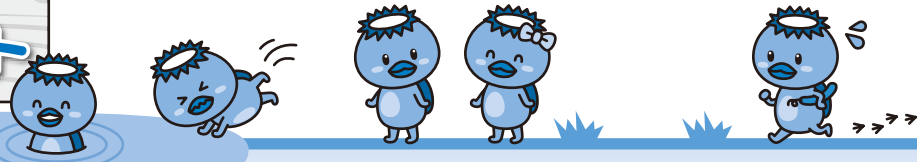


クイズ & アンケート



クイズとアンケートに答えていただいた人の中から抽選でプレゼントします。なお、当選の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

今月のプレゼントは『ランチボックス』 2名様

※志木市は、埼玉西武ライオンズのフレンドリーシティです



※イメージ

今月の広報紙クイズ

Q このまちで、自分らしく生きていくための身近な暮らしのパートナーは？

市民〇〇〇

ヒント…3ページ

〈先月号の答え：柳瀬川〉

アンケート

Q1 今月号で良かった内容や写真を教えてください。

Q2 取り上げて欲しい内容や企画を教えてください。

Q3 広報紙に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

応募方法

次の①～⑥を記入(必須)のうえ、ハガキ、お便り、メール、または申込フォームQRコードからご応募ください。

①クイズの〇に入る言葉、②アンケートの回答、③住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号



申込フォームQRコード

<宛先> 〒353-8501 志木市中宗岡1-1-1
志木市役所秘書広報課「広報しき7月号」係
✉ koho@city.shiki.lg.jp

<締切> 7月20日(金) ※消印有効



志木市長 香川 武文

子どもの笑顔を守り抜く

「もうパパとママにいわれなくても しっかりとじぶんからきょうよりもっともっと あしたはできるようにするから もうおねがい ゆるして ゆるしてください おねがいます

ほんとうにもうおなじことはしません ゆるして きのうぜんぜんできてなかったこと これまでまいにちやってきたことをなおします

これまでどれだけあほみたいにあそんでいたか あそぶってあほみたいなことやめるので もうぜったいぜったいやらないからね ぜったいぜったいやくそくします」

これは、今年3月に東京都目黒区で亡くなった5歳の船戸結愛さんが、一生懸命練習したひらがなで書き残した必死の声。

暴行を受け、今年の1月頃から十分な食事を与えられず、真冬に暖房も室内灯も無い部屋に放置され、衰弱死してしまった、胸が締め付けられる痛ましい事件でした。

志木市においても、児童虐待「ゼロ」を目指していますが、このような悲しい事件を発生させてはならないと、改めてオレンジリボンを手に強く感じています。

厚生労働省によりますと、平成28年の児童虐待の相談件数は122,575件で、平成24年と比べて約2倍に伸びており、本市においても平成25年度の児童虐待相談件数は138件でしたが、平成29年度は216件と伸びている状況です。

その一方で、相談件数に対する児童相談所のマンパワー不足は解消されておらず、また、自治体と警察との連携についても法整備が整っていない状況で、情報共有の基準が曖昧になるなど、防げたはずの虐待死を食い止めきれない実態があります。

それぞれ一つの機関で対応できるほど児童虐待は簡単な問題ではありません。事件性が有る無しに関わらず、関係機関としっかりと情報共有、そして緊密な連携を図っていくことが重要で、埼玉県でも児童虐待が疑われるすべての事案で警察と情報共有するという指針を打ち出したところであり、国においても早急に対策を講じる必要があると考えます。

児童虐待を防止するための通報は、市民の義務でもあります。地域のあたたかいまなざしと実行が、子どもを救い、ひいては虐待をしてしまう親も救うことになります。

未来の志木市を担う小さな命をしっかりと守るためにも、おかしいと思ったら躊躇せずに警察や児童相談所全国共通ダイヤル〔☎189〕、または志木市児童虐待ホットライン〔☎048(473)1124〕に連絡をお願いします。

